

野菜・花きの営農情報

《5月中～下旬の技術対策》

平成29年5月15日発行 第1号
空知農業改良普及センター
tel 0126-23-2900
fax 0126-22-2838

www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/s
s/nkc/soc/index.htm

全作物共通

- ① 適正な土壌水分での耕起作業が重要です。また、暗渠等との接続が前提になりますが耕起前のパラソイラ、サブソイラを用いた処理は排水性向上に有効です。
- ② 外気温や日照の変化に応じたハウスの開閉が必要です。曇天後のわずかな日照でもハウス内温度は急上昇しますので注意が必要です。
- ③ ほ場準備が遅れた場合は、苗の馴化や適切な管理により老化苗にならないよう注意する。

野菜

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
果菜類		
メロン	<ul style="list-style-type: none">・着果前までは、最高気温30℃、最低気温16～18℃、地温16～18℃が温度管理の目安です。・マルチ下の土壌水分を確認しながら、少量多かん水を施しましょう。本葉10枚頃に草勢が弱い場合は、着果7～10日前頃のかん水は雌花の充実につながります。・5月下旬に縦ネット期（果実肥大期）に入る作型では、その時期にかん水を控えなければならないので、事前にやや多めのかん水を行いベッド内の水むらを解消しておきましょう。	5月上旬にかけて平年よりも高温乾燥気味に推移したため、ハダニの発生が予想されます。こまめなほ場観察が重要となります。
ミニトマト	<ul style="list-style-type: none">・昼夜の温度差が大きい時期です。日中の気温25℃、最低気温12℃以上を目標に、ハウス換気等こまめな温度管理を行いましょう。・かん水はマルチ下の土壌水分を確認し、生育状況に応じて少量多かん水とします。・ホルモン処理は日中を避け、涼しい時間帯に行ってください。（高温時は、奇形果の発生原因になります。）・奇形果の摘果やわき芽の摘心は晴天時の午前中に行い、傷口が午後には乾くようにしましょう。	<ul style="list-style-type: none">・低温・多湿条件が続くと灰色かび病が発生するおそれがあります。こまめな換気を行うとともに、発生前に予防剤による防除を行うことも効果的です。
きゅうり	<ul style="list-style-type: none">・ハウス内の温度は、日中25℃、最低気温15℃以上を目標に管理しましょう。・定植後の活着は順調です。ハウス内の湿度が急激に下がったり、温度が急激に上昇した場合、生長点が損傷する恐れがあります。急激な換気は避け徐々に換気を行いましょう。かん水は、土壌水分と生育状況に応じて行いましょう。葉色が薄い場合は、葉面散布を行いましょう。	<ul style="list-style-type: none">・ハウス内が過湿状態の場合は、べと病などが発生しやすく、乾燥状態の場合は、ハダニが発生し易くなりますので、発生状況に留意しましょう。
かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none">・育苗前半は、夜温を15℃以上確保するように保温します。定植の7日前から外気に馴らします。・育苗後半は徒長を防ぐため、鉢ずらしをします。・定植1週間前にはマルチ張りなど本畑の準備をし、地温15℃を確保してください。・親つるの摘心は、定植の3～4日前に本葉3～4枚を残して行います。・定植前日にポットに十分かん水し、定植直後には地温が下がるため行わないようにします。・植え傷みを防ぐため、定植は暖かい時間帯に行いましょう。	
いちご	<ul style="list-style-type: none">・春どり（一季成り）いちごは、肥大期～収穫期に入っています。高温管理にならないように注意しましょう。・日中の温度管理は、20℃前後を目標にしましょう。・夏秋どり（四季成り）いちごの株養成時期の株は、ランナーと果房の除去を行い丈夫な株を作りましょう。・いちごは、乾燥・過湿に弱い作物なので、朝の葉つゆの状況を見ながらかん水を行いましょう。	<ul style="list-style-type: none">・花びらの落ちが悪いと、そこから灰色かび病の発生につながります。薬剤防除のほか、こまめな換気などの耕種的防除も行いましょう。・ハダニ、シクラメンホコリダニの発生に注意し、発生初期防除に努めましょう。

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
葉茎菜類 たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 定植作業は平年よりも早めに進みましたが、その後の天候により、葉先が傷んでいるほ場もあります。 生育が停滞しているほ場やクラストの解消されていないほ場では、中耕を実施し生育促進を図りましょう。 除草剤は生育状況を確認しながら散布しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ネギハモグリバエの食痕を確認したら防除しましょう。
露地ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 定植後に適度な降雨があり活着は順調です。葉色が淡い場合は葉面散布を行い、活着促進に努めましょう。 1回目の培土時期は定植後30～40日頃を目安とし、植溝の土戻し程度としましょう。 追肥を行う場合は、1回あたりにチッ素成分量を10a当たり2～3kg施用しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ネギハモグリバエの食痕を確認したら防除しましょう。
レタス	<ul style="list-style-type: none"> 寒暖差が大きいため、生理障害や病害の発生が多くなる可能性があります。温度管理に注意し、必要に応じて病害虫防除を行いましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 灰色かび病や菌核病が発生しやすいので、結球の始まる20日前頃から防除しましょう。
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> 収穫開始の早いハウスでは収穫期間が30日を経過しています。ハウス栽培では、春芽収穫開始約30日後から立茎を行います。立茎の開始は、収穫量、萌芽数の減少、扁平・曲がり・細い若茎が増えてきた頃等を目安にします。 立茎候補枝を選ぶときは、茎径10～12mmを目安に1株あたり4～5本又は1m当たり12～15本を目安としましょう。立茎開始後も立茎枝以外は収穫します。 施設内は乾燥傾向です。かん水量の不足に注意しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 露地栽培では、地温の上昇により害虫が発生します。害虫の被害を確認したら防除しましょう。
花 き		
品目名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
スターチス (シヌアータ)	<ul style="list-style-type: none"> ハウス内の温度変化が激しい時期です。晴天時の日中は高温とならないよう注意し、雨天や曇天日は湿度の上昇に注意し換気しましょう。《活着後の目標管理温度は、10～15℃》 摘心は、活着後、抽台茎が20cm位になったら1回目を実施します。 株の直径が40～50cm（隣の葉と重なる程度）になるまで、摘心します。 株が十分充実したら（定植後約45日で葉数45枚が目安）、出荷時期を考慮しながら、摘心を止めて抽台茎を立て始めます（最終摘心から採花までの目安：30～40日）。 	<ul style="list-style-type: none"> 摘心や摘葉など作物を傷つけた作業の後は、灰色かび病の予防防除を実施しましょう。